

# 沖縄県における メディカルツーリズムと ヘルスツーリズムの現状と発展可能性

提出日

2017年1月30日

指導教授

斎藤 正武 准教授

中央大学商学部

経営学科 13C1112013J 曲山将平

商業貿易学科 13C3151019F 伊藤瑞樹

## 沖縄県におけるメディカルツーリズムと ヘルスツーリズムの現状と発展可能性

中央大学商学部

斎藤正武ゼミ

曲山将平 伊藤瑞樹

近年、医療を受ける目的で海外へ渡航する「メディカルツーリズム」の動きが世界的に広まっている。アジア諸国では、メディカルツーリズムを成長産業として、国を挙げて外国人の誘致に取り組む国も多い。日本においても、2010年に閣議決定した「新成長戦略」の戦略分野の一つとして「健康（医療・介護）」を挙げ、外国人患者の受け入れ・メディカルツーリズムの促進が盛り込まれるなど、国内でも注目を浴びてきている。一方、日本では高齢化が進み、健康志向が高まる中「ヘルスツーリズム」も注目を集めつつある。ヘルスツーリズムとは、健康・未病・病気の方、または老人・成人から子供まで全ての人々に対し、科学的根拠に基づく健康推進を理念に、旅をきっかけに健康増進・維持・回復・疫病予防に寄与するものである。近年、こちらも国家戦略として取り上げられ始めている。

事実、メディカルツーリズムについては、言葉や文化の壁が高く、国内の医療機関の多くは外国人患者の受け入れに消極的である。日本医師会は「混合診療解禁による国民皆保険制度の崩壊や、医療に営利的要素を持ち込むことは問題がある」として賛同しかねている現状があり、メディカルツーリズムの発展を妨げる影響があるが、水面下で動いている団体は少なからずある。それと比べるとヘルスツーリズムは医療機関を必ずしも必要としないという点発展可能性が高いといえる。

そこで本研究は、メディカルツーリズムとヘルスツーリズムに重要なキーワードが「健康」と「観光」であると考え、それらが潜在的に多く存在する沖縄県に注目し、沖縄県におけるメディカルツーリズムとヘルスツーリズムに関して研究を行った。具体的には、「沖縄県において、メディカルツーリズムが発展する可能性は高い。同時にヘルスツーリズムも発展する」と仮説を立て、沖縄県におけるメディカルツーリズムとヘルスツーリズムの現状を、メディカルツーリズムを積極的に行っている豊見城中央病院と南部徳洲会病院、ヘルスツーリズムに関する研究を行っている琉球大学にヒアリングを行うことで検証を行った。

その結果、沖縄県におけるメディカルツーリズムは観光資源が豊富であること、アクセスの良さ、協議会の存在、積極的に取り組んでいる医療機関があること等により少しずつ発展し、ヘルスツーリズムにおいても健康増進に関する観光資源が豊富で、特に障壁がないことから「ウェルネス」という括りの中で発展可能性が高いという結論が得られた。

今後の課題としては、医療機関、自治体、企業の三位一体の改革について等の日本全体におけるメディカルツーリズムやヘルスツーリズムの動きについて議論するべきである。